

鹿市医郷壇



493

樋口 一風 選

兼題「最早(もへ)」

天

上町支部 吉野なでしこ
 米櫃も最早空れなけた伸っ盛い
 (唱) 部活帰いが羽釜を刮せっ
 (評) 食べ盛りの男の子がいると、お腹は大丈夫かと思うほどよく食べます。頼もしいと思いつつも心配にもなります。ましては部活の子供は、只今も云わず台所へ直行です。米櫃もアツと思う間もなく、空になる筈です。「最早」の感じがよく出ていました。

原句は「食べ盛り」になっていましたが、鹿児島では「食盛り」と言い、四音字になるので「伸っ盛い」と、鹿児島弁に変えてあります。

地

伊敷支部 谷山五郎猫
 最早朝け二日酔頭て苛されっ
 (唱) 一時が寝せち目覚ます止めっ
 (評) 深酒をした翌朝は、ゆっくりと寝ていたいものです。ましてや飲み過ぎて二日酔の朝は尚更です。この人は、多分午前様だったのでは。ウトウトとするうちにもう朝になっていました。今日は仕事を休んでゆっくり寝ていたい気分だったのに。
 「最早朝け」の咳きがよく効いています。目覚まし時計の音が恨めしくもなります。

人

清滝支部 鮫島爺児医
 目も耳も最早故障が来っ先が心配
 (唱) 気分な若けて五体が逆ろっ
 (評) 気分はまだ若い気であるのに、急に体力が落ちてきます。百歳まで生きる

つもりも、加齢による白内障や難聴など、老人性の症状が現れ最早老境かと愕然とします。八十歳を過ぎた作者の実感句でしょうか。身につまされる句です。

五客一席 上町支部 吉野なでしこ
 GoTtoも最早減がむっつち凄ぜ騒動
 (唱) こいち決め手が無で狼狽ろっ
 五客二席 清滝支部 鮫島爺児医
 最早着たち新幹線ぬ寝むい爺
 (唱) 弁当を食うち博多が見えっ
 五客三席 印南 本作
 子んスマホ最早傷だらけ親が叱っ
 (唱) 新品じゃって丸で中古

五客四席

紫南支部 二軒茶屋電停
 最早寝付っじやって三時目覚めっ
 (唱) うつらうつらで難儀な一夜
 五客五席 醤油屋孫一
 初日の出目が覚めた時最早登っ
 (唱) 新年早々呆え朝寝坊

秀逸

清滝支部 鮫島爺児医
 八十五歳父親の享年すば最早超えっ
 終戦後最早七十年世は平和
 最早正月月日の流れ早よけなっ
 開業しっ最早五十年丸で夢
 孫達が最早年頃ち相手が心配
 コロナ騒動最早百万人もけ死ませっ

上町支部 吉野なでしこ
 飲兵衛奴最早空びんち涼し顔

伊敷支部 谷山五郎猫
 最早来たか餌時く待てん肥満猫
 食盛いの若者ん夕飯しや最早三杯

印南 本作
 最早来たど命つば繫っトクタヘリ

醤油屋孫一
 結婚当初最早女房ん地雷ゆ踏ん
 戻らせん大事な時間が最早過ぎっ

薩摩郷句鑑賞 134

三條風雲児著
 薩摩狂句一〇〇年
 背負た業ち涙を隠きつ癌の看病
 森山 厚香
 相手が親なのか、連れ合いなのかは分らないが、治る見込みのない病人の看病ほどつらく切ないものはあるまい。まして本人は、癌とは知らず、そのうち治ると信じている場合がほとんどだから、なおさらである。

その看病の苦しさを、自分が持つて生まれた業だと思つて、懸命に尽くしているのである。
 悪行の報いではないのだけれども、そんな気持ちになつて、最後まで看病しようという人に恵まれた病人は、ある意味では幸せと言つものだろう。

谷口 雲城
 取れた管お粥ゆ口ちすい亭主し涙

これはたぶん、長い間、管を通して流動食を取つていたのであろう。
 それが、病気がだいぶ快方に向かったので、管を外して、お粥を食べられるようになったのであろう。

薩摩郷句募集

2号 題吟 「仮病(けびよ)」
 締切 令和3年1月8日(金)
 3号 題吟 「卒業(そつぎよ)」
 締切 令和3年2月5日(金)
 選者 樋口 一風
 漢字のわからない時は、カナで書いて応募ください。選者が適宜漢字をあててくださいます。

応募先 〒八九二-〇八四六
 鹿児島市加治屋町三番十号
 鹿児島市医師会 鹿児島市医報 編集係
 TEL 〇九九-二二六-三七三七
 FAX 〇九九-二二五-六〇九九
 E-mail: ihou@city.kagoshima.med.or.jp

それまで、看病をしてきた奥さんは、お粥を食べる主人の姿を見て、つい嬉し涙が出てきたのである。

看病をしてきた人の気持ち、快方に向かつてきた人の気持ち、快方に向かつてきた喜び、そういうものがよく出ていて、よかつたなあと声をかけてやりたい句である。